

指定校番号	28033	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立井口台小学校	校長	中島 孝子	生徒指導主事	松岡 亮平
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『豊かにかかわり合う学級活動のための土壌作りの充実』

取組のねらい『キーワード 豊かなかかわり』

本校の児童は、自分なりの考えを持っていたとしても、周りの目を気にするあまり、遠慮したり本音を隠したりする傾向が見られた。さらに、友だちが伝えようとするに関心を持たず、聞こうとしなかったり、相手を傷つけるような言葉を発したりする傾向も見られた。

そのため、児童に、自分の意見を素直に表現できる共感的な人間関係を育成するとともに、自分の意見を主張するだけでなく、相手を尊重しようとする態度を身につけさせ、何事にもやりがいや達成感を感じさせることができるようにする。

取組の具体的内容『キーワード フリートーク』

全学級でフリートークを実施した。フリートークとは、話題に沿って、児童が自分の考えを述べ合う話し合い活動のことである。フリートークを通して、話す力、聴く力、話し合う力を育てることができると言われていたが、本校では、いじめ・不登校等予防的生徒指導の推進を図るためのライフスキル教育の一環として、友だちに共感したり、よさを感じたりするような仲間関係を育てていくことを一番のねらいとして行っている。基本的に、教員はフリートークに加わらず、児童たちだけで話し合う。

以下がフリートークの具体的な実施内容である。

- ① 1人の人〔リーダー〕が話題を出す。例えば、「好きな〇〇はなんですか?」「△△と□□どちらを選びますか?」「もし、〇〇だったら、どうしたいですか?」「どうしたら、〇〇できますか?」などの内容で行う。

「今日のテーマは『こたつとストーブのどちらがすきですか?』です。このテーマにしたのは、最近とても寒いので、みんながどっちを使ってあたたまっているかを聞いてみたいからです。わたしは、こたつの方が好きです。なぜかという、こたつに入るとぼかぼかしてあったかいからです。おたずねはありますか?」

- ② みんなで話題について自分の思ったことや考えたことを話し合う。

「私は、●●さんとちがって、ストーブが好きです。なぜかという、●●さんはあったまるまで、5分かかると言ったけど、うちの家のストーブはすぐあたたまるからストーブが好きです。」

- ③ 話し合いについてふりかえりをする。

「私（リーダー）が心に残ったのは、☆☆君の話です。理由は・・・だからです。みなさんはどうですか?」

「ぼくが心に残ったのは、★★さんの話です。理由は・・・だからです。」

- ④ 教員がフリートークについて感想を述べる。

取組の課題・創意工夫『キーワード 楽しむフリートークで仲間作り』

教員は、話す力、聴く力をつけようとしすぎないように、あくまでも、仲間関係を育てる視点に立ち、フリートークを児童たちが楽しめる形で続けていった。そのため、教師は「児童のありのままを聴く」「児童の話を楽しんで聴く」「児童の思いを想像しながら聴く」ことに徹した。また、聴き方の良い児童や伝わりやすい話し方をした児童を価値付けたりすることで、児童に相手意識や仲間意識を育み、話し合いやすい学級風土を作り上げられるよう工夫した。

取組の成果（効果）『キーワード フリートークに対する評価』

「フリートークで、進んで友達の話の聞いたり、自分の思いを伝えたりすることができた。」という項目に対して、「よくできた」と答えた児童が、平成26年度…41%・平成27年度…44%・平成28年度…51%と徐々に増加している。普段の授業とは違い、和気あいあいとした雰囲気の中で進められるため、自分の意見や考えが述べやすいと感じている児童が存在しているように思われる。その一方で「あまりできなかった」もしくは「できなかった」と答えた児童は、平成26年度…20%・平成27年度…20%・平成28年度…19%と横ばい傾向にあり、積極的に参加できていないと実感している児童が存在しているという実態もある。意見を述べることだけが大切なのではなく、人の意見をしっかり聴くことで参加していることも大切なことであると教員が価値付けていくことで、フリートークを楽しむことができる児童を増やしていきたい。

また、教員対象に行ったアンケートの中には、「フリートークが日々の授業にも成果として表れており、意見を発表したり聴いたりする行動や姿勢に成果が出ている」と回答しているものもあった。

今後の展開『キーワード より効果的なフリートークの活用』

フリートークを本校で取り入れて3年目だが、話題が似たようなものになってしまうという課題がある。継続して行っていくことで以前の学級で取り上げた話題と重複しているという事態も頻繁に起こってきていることが、やや児童にとって意欲を損なわせているようにも感じられる。フリートーク以外にも豊かなかかわりを生み出す活動を取り入れてフリートークと併用して活用したり、同じ話題であってもメンバーが違うことで話し合いも違ってくことに目を向けさせたりする工夫が必要だと思われる。

他校へのアドバイス『キーワード 児童主体のフリートーク』

フリートークにおいて最も大切なことは、教員自身が話し合いを楽しんで聴くということであり、フリートークの最中には笑顔で素直な反応を心がけることである。つつい話す力・聴く力・話し合う力を『鍛える』形で指導してしまいがちであるが、この取組のねらいはあくまで豊かなかかわりを育むための土壌づくりである。教えるというスタンスではなく楽しむというスタンスだからこそ、「指導」ではなく、自由に話題について話し合いを楽しむ活動を行うことができる。人間関係作りの土壌ということもあるので、目に見える形ですぐに成果が表れることを期待せず、長期的な目で継続的に行うことが大切である。

また、教員が不必要に介入することは児童主体のフリートークの障害ともなってしまう。児童自身が主体となりフリートークそのものを完成させることで学級での仲間意識や学級内での自己存在感を育むことにもつながっていく。